

上毛高原駅を核としたまちづくり構想（要約版）

1982年11月15日上越新幹線は開業しました。

県北の玄関として当時の月夜野町地内に駅が設置されましたが、駅名については様々な意見があり暫定的に「上毛高原駅」と命名されました。しかし「上毛高原」という場所はなく、多くの人々や機関・団体が戸惑いを持ったまま40年が経とうとしています。

その間、月夜野町・水上町・新治村の合併により2005年みなかみ町が誕生しました。「水と森林と人を育む利根川源流のまち」として、2017年にはユネスコ生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）に、2019年にはSDGs未来都市に選ばれました。「みなかみ」の名は国内のみならず全世界に知られる存在となっています。天気予報でも県北は「みなかみ」の名で知られています。

こうした動きを踏まえて、みなかみ町商工会・みなかみ町観光協会が実施した駅名変更活動には1万人を超える賛同署名が集められました。

町内外の関係者・有識者からなる検討委員会を経て、私たちは、ここに、上越新幹線40周年に際して駅名を確定し、それにふさわしい駅周辺整備を進めるため、2つのプロジェクトを提案します。

◎プロジェクト1：上越新幹線40周年に際し駅名を確定しましょう。

第1のプロジェクトは、ずばり駅名の確定です。

駅名確定（変更）には、町民や周辺市町村は無論、国、JR、県・県議会はじめ多くの団体の合意と協力が不可欠であり、かつ、経費もかかることから、私たちは、北陸新幹線敦賀延伸に伴う大幅ダイヤ改正が想定される**2024年春**を駅名確定（変更）の目標年次とします。

プロジェクトの柱を次の3つと考え、大胆かつ丁寧に取り組んでいきます。

- ①関係諸機関等との合意の形成
- ②町民・周辺市町村民をはじめとする全国民の意向把握と合意形成
- ③新駅名にふさわしい「みなかみ町」の発信

◎プロジェクト2：新駅名にふさわしい周辺整備を進めましょう。

（仮称）上毛高原駅は「水と森林と人を育む利根川源流のまち」みなかみユネスコエコパーク・SDGs未来都市の玄関口です。

町のビジョンやユネスコエコパーク・SDGs未来都市の構想ですでに出されている理念を最も集約的に、かつ、玄関口にふさわしい形として整備するため、環境、景観、持続可能性、豊富な水資源、再生エネルギー、健康、快適性、観光といったキーワードに留意しながら、具体的には次のような検討から始めます。

- ①移住者等に向けた住宅地開発・整備、テレワーク・ワーケーション関連施設整備
- ②駐車場整備、（高速）バスターミナル整備等
- ③公共・公用施設や観光関連施設の整備、商業施設の誘致・開発